
五神冒険記

休憩所

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

五神冒険記

【コード】

N8912H

【作者名】

休憩所

【あらすじ】

木村歳和は平凡すぎる日々を送っていた。高校生活には飽き飽きしたそんな日々が彼の日常。だが、そんな日常が一変する出来事が起こる。

天地に循環するわ木・火・土・金・水の五気。

それ、崩れたるは天地の終息なり。

木村歳和きむらとしかずは平凡な学校生活に飽き飽きしていた。

高校二年生になり、学校というものを楽しもうと努力したつもりだ。しかし高校に入学したその日歳和のツンツンとした髪型、風貌、目つきに皆が近付こうとせず、また歳和自身の友達を作ろうとしない性格も相まって、一匹狼状態が二年間続いている。

2

別に一人なのは平気なのだ。

しかし部活なども入っていない、友達も作らない歳和にとって学校は勉強するためのだけの空間の場。平凡すぎる空間。

今日もかつたりい…

そう思いながら家に帰ろうと歩いていると、公園の近くの道端にウサギのぬいぐるみが落ちていた。

誰のぬいぐるみだ？

なぜかそのぬいぐるみが気になり、そっと拾って辺りを見回すが誰もいなかった。

「誰のぬいぐるみだ？…まあ、いいか。ゴミ箱にでも捨てるか」

そう言っつて、公園のゴミ箱に捨てようと思った瞬間だった。

「なぜ、ワシを捨てるのだ？」

声が聞こえた。誰もいないはずなのに。
辺りをまた見回すが、やっぱり誰もいない。

なんだ…空耳か。最近疲れてんのかもな。俺は。

そして、また捨てようとした瞬間。

「空耳でもなんでもないぞ。よく見る」

また声がした。

声をした方を慎重に探っていくと、握っているぬいぐるみに目があった。

「やつーと、気付いたか。お主は馬鹿者だな」

ぬいぐるみが…喋った！？

ビックリして思わず、ぬいぐるみを放り投げて一歩二歩下がった。

「おーい、酷い扱いじゃのー」

ぬいぐるみは、ムクツと立ち上がり自分に付いた砂を払いながら、
まあ、この姿を見て腰を引かないだけまだ勇敢じゃな、と面白そう

に笑いながら言った。

「なんで…ぬいぐるみが喋ってるんだ!？」

腰は抜けなくて勇敢と言われたが言っている相手はぬいぐるみ。

歳和は動揺していた。

「む、ぬいぐるみが喋ってはいかんという法律はない」

「そういう問題じゃねえだろ！」

動揺して、思わず叫んでしまった声にハツとなる。

こんなところで叫んでいたら変な人に思われる! ってか、俺は可愛
いぬいぐるみと喋ってるクレイジー人間だって勘違いされる!!

とにかくこの場から逃げねば、と思いその場から即座に離れよう
としました。が、

「まあ、待たんか。木村歳和よ」

動こうとする足が止まる。

「……なぜ、俺の名前を」

「それはお前が選ばれた人間じゃからじゃよ」

この出会いは、俺の平凡な人生を大きく変える出来事になるのだ
った。

(後書き)

休憩所の友達の砂丘です！コメント等々頂ければ、修正します。
よろしくお願ひします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8912h/>

五神冒険記

2010年10月20日13時57分発行